

皮膚科

(スタッフ)

部長 : 竹尾 直子
副部長 : 生野 知子
嘱託医 : 轟木 麻子
専攻医 : 三浦 真理子

(診療実績)

当科では新患・再診ともに月・水・金曜日に医師4名体制で診療しております。緊急で対応が必要な場合には、上記以外の日にも可能な限り対応しています。

2022年の外来患者数は2021年とほぼ変わりなく推移しています。コロナ禍前にはまだ及びませんが、入院患者数、手術件数は増加傾向を認めました(表1)。

2022年の紹介患者・入院患者の疾患内訳をまとめました(表2、表3)。

当科は開業医では対応が困難な皮膚科患者を積極的に受け入れ、対象疾患は多岐にわたります。特発性の慢性蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、乾癬、化膿性汗腺炎などに対する生物学的製剤による治療は引き続き行っています。またアトピー性皮膚炎、乾癬性関節炎、円形脱毛症に対するJAK阻害薬の導入も少しずつですが増加しています。

入院疾患は、帯状疱疹、蜂窩織炎などを含めたウイルス感染症、細菌感染症が例年と同様に多くみられました。アナフィラキシー、マムシ咬傷は救命救急科と連携し、救命救急センターの入院で対応しました。食物や薬剤による蕁麻疹・アナフィラキシーなどの即時型アレルギーの原因精査の為の皮膚テストは外来ではリスクが高く、救命救急科にご協力頂き、病棟での施行が可能となり、検査目的の入院が増加傾向です。

手術室を利用した手術では、局所麻酔で行う皮膚悪性腫瘍切除術、全層植皮術を中心に行いました。熱傷や難治性皮膚潰瘍では、形成外科と連携して手術治療を行いました。

表1 診療実績の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	対前年比率	
外来	延べ外来患者数(人)	11,116	9,401	10,209	10,338	101%
	新外来患者数(人)	1,218	915	1,036	996	96%
	紹介患者数(人)	510	468	479	441	92%
入院	延べ入院患者数(人)	3,664	1,895	1,938	2,140	110%
手術	手術室手術件数(件)	88	30	51	59	116%

表2 紹介患者の病名内訳

(単位:人)

病名	患者数	病名	患者数
皮膚腫瘍	132	炎症性角化症(乾癬以外)	10
湿疹群	89	アトピー性皮膚炎	7
蕁麻疹	34	血管炎	7
アレルギー検査	25	肉芽腫症、脂肪織疾患	6
細菌感染	23	真菌症	6
薬疹・中毒疹	22	外傷、熱傷	6
帯状疱疹	22	化膿性汗腺炎	5
毛包脂腺系疾患	16	掌蹠膿疱症	5
ウイルス感染	16	アナフィラキシー	5
乾癬	15	色素異常症	5
脱毛症	13	皮膚形成異常・萎縮症	4
自己免疫性水疱症	12	新型コロナワクチン関連	2
皮膚潰瘍	10	紅皮症	2
膠原病	10	その他	58

表3 入院患者病名内訳

(単位:人)

病名	患者数	病名内訳
帯状疱疹	57	汎発性帯状疱疹9、その他48
皮膚腫瘍(手術)	39	基底細胞癌11、ボーエン病11、有棘細胞癌7、日光角化症1、その他9
細菌感染	31	蜂窩織炎25、膿瘍3、敗血症1、丹毒1、壊死性筋膜炎1
アナフィラキシー・アレルギー	17	緊急入院対応6、予定入院(検査)11
薬疹・中毒疹	8	薬疹3、中毒疹3、多形紅斑1
湿疹・蕁麻疹	8	アトピー性皮膚炎4、蕁麻疹2、慢性痒疹2
水疱症	7	水疱性類天疱瘡5、尋常性天疱瘡2
膠原病・自己免疫疾患	7	IgA血管炎2、ベーチェット病1、皮膚筋炎1、筋炎1、成人ステイロ病1、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症1
皮膚潰瘍	6	下腿潰瘍3、足趾潰瘍1、その他2
ウイルス感染症	4	尖圭コンジローマ1、成人水痘1、伝染性単核球症1、その他1
円形脱毛症	4	
マムシ咬傷	3	
熱傷	2	
その他	5	化学外傷1、T細胞リンパ腫1、肛門周囲膿瘍1、化膿性汗腺炎1、列序性母斑1

(今後の方向性)

当科は4人のスタッフを擁し、検査や手術が可能で、入院病棟を有していること、乾癬の生物学的製剤承認施設であることから、県下の皮膚科疾患治療における役割は大きいと考えます。当科は引き続き、役割を果たすための努力を続けていきます。

また、2023年はスタッフの大幅な交替が予定されております。これまでの診療体制を維持しつつ、新規治療薬の導入や、当院で対応できる手術を増やすなど、より質の高い専門医療を提供できるように努めてまいります。

(文責:生野知子)